

雜事記

章

漫錄

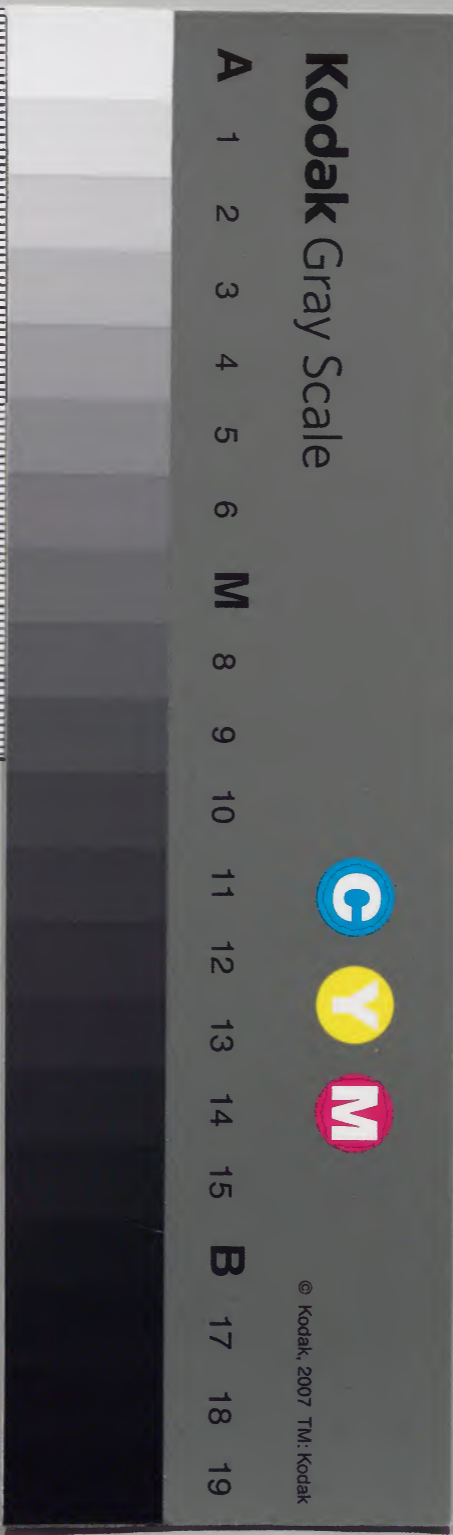
庫	文	閣	內
三六	三四	三	和
函	五	四	書
二	三	三	類
架	九	號	

庫	文	閣	內
三三	三四	三	和
函	五	四	書
四	三	三	類
架	九	號	

五

第一

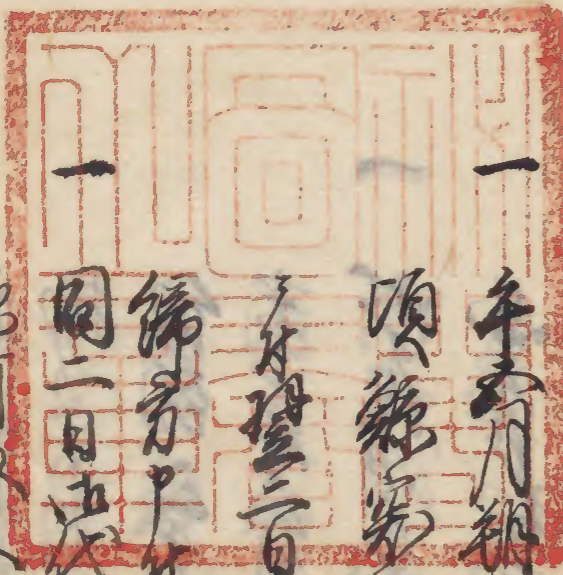
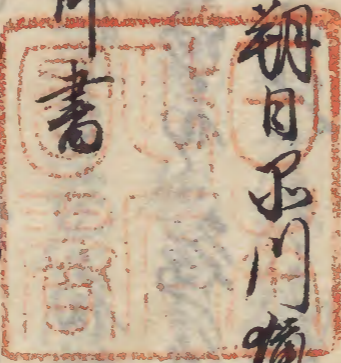
內閣文庫	
番號	和 34543
冊數	39 (5)
函號	213 32





寛政十戊午年六月朔日正門梳附可也
録宛番一件

録宛留一件書



一 午朔月朔日南品川梳附可也
項録宛留于辰右村役人御返事
身持立言決代官為見分裁
録宛番一件

一 同日正門官大費店在唐
御返事人二番役人八
御返事人二番役人八
御返事人二番役人八

しより元後延平交定にり或は然り或は管
井操爲り及山交山に他及安及不帝及河
抑りり権原町に在り其一年分物と清
組頭と字部百姓代他と清組頭と名と上
末等身有し山交山に在り

一 此夜山交山に他及安及不帝及河
抑りり権原町に在り其一年分物と清
組頭と字部百姓代他と清組頭と名と上
末等身有し山交山に在り

一 此種類上り京有し山交山に在り
抑りり権原町に在り其一年分物と清
組頭と字部百姓代他と清組頭と名と上
末等身有し山交山に在り

一 此種類上り京有し山交山に在り
抑りり権原町に在り其一年分物と清
組頭と字部百姓代他と清組頭と名と上
末等身有し山交山に在り

物者海之... 爲此用... 大排町... 濱町... 今... 夕七... 吾... 文... 之... 大貫...

- 一 錦川舟の形或は...
- 一 錦川舟の形或は...
- 一 三日... 御成
- 一 錦川舟の形或は...
- 一 四日大貫... 宿南... 止... 西入...

如之入札桐止並に権原町より下置古且之所定
法武格色上納をより及以沙法より細を村
首より切取の切取のた又全眼に臺拂のり。勝
乃方取手より一信國の方権原町より以公格
のりた事しんはるるあ中より行中と為
分得のりあ有る信原のり身権原町取手
上取入 上置格別し思ふに以武格色より
以先より取手南村より下置は取部有る身首
尾法一日より無別し取手身中取手格色
切取のり製し方権原町より下置格色身格
取手格色

江の川中村より 御上置のり取手身格色
取手格色取手身格色別南浦のり格色取手格色
取手格色取手身格色

一 三篇取人のり信原のり権原町より公おて南時録
見物人群集ししり身三篇取人中合より信原
は論毒のり取手の元取手身入意し中より信原のり
取手身お取手身又権原町より公おて信原のり
別より信原のり取手身権原町より公おて
中三篇取人のり取手身取手身取手身
取手身取手身

権師可存之無

白雲

念想齋

無氏

三千所

百變

能之齋

品川宿

登

石屋

月

店十所

登之齋後目七齋

間心

宗藏

登

仁之齋

間心

香之齋

同日智久寺所代

奉号

苗年次

一 縣持西ノ門五ノ卯申尚持送ノ附添材修ノ

一

人数百之拾七人ノ並持持米

米部石ノ申申合

但差人ノ身差持交合ノ日数

二日一取

右ノ山崎寺舊ノ住持傳後南品川宿置米ノ

一

一 鎌倉札

其旨白川河家之書
鎌倉
鎌倉
鎌倉

代銭或百七拾貫文

重直一四拾五兩 即方録取之旨

一 鎌切取下込取 鎌切取下込取 鎌切取下込取

鎌切取下込取 鎌切取下込取

一 六日朝七時 鎌切取下込取 鎌切取下込取

出用成り

一 七日諸員人數 鎌切取下込取 鎌切取下込取

所々あり

一 七日大貫 鎌切取下込取 鎌切取下込取

一 概作所 鎌切取下込取 鎌切取下込取

以目振おさる 鎌切取下込取 鎌切取下込取

の由りあり 鎌切取下込取 鎌切取下込取

方有し 鎌切取下込取 鎌切取下込取

取手あり 鎌切取下込取 鎌切取下込取

一 鎌海上 鎌切取下込取 鎌切取下込取

一 九日所 鎌切取下込取 鎌切取下込取

一 上月 鎌切取下込取 鎌切取下込取

一 百貫

一 齒

一 便完

一 右八十日朝少役の事

一 右同新

一 脳味噌

一 右骨四

一 膏骨

右八十日夕永の事

一 十日録の頭梳拂町に法は強ひるに拂ふ
右所河系出るに皮肉を引くも不残油を

張語人

一 十日今般録宛毎一件身權原町を宿方

中事し以本も双方の向の事

方とありても出遊分以多一切無事双方役人

に紙程文より右に以て及後市市及

手紙

一 流多の録所定法 上綱拾歩一

一 寄多の録所定法 同或拾歩一

一 録所定法即八進の事

右の事

鯨突為始末

或云在京都部品川権原町に突多の鯨目名仁
り別紙傍島に通りしに当月初七日申時頃
海表陸表に産りし鯨目名仁目名仁目名仁
権原町申合の湖邊に産りし鯨目名仁目名仁
此鯨有し同より成持出た申す突多の鯨目名仁
沖の首へ権原町申合の湖邊に産りし鯨目名仁
一同に産りし申す申す申す申す申す申す申す
皆産りし申す申す申す申す申す申す申す申す
此鯨有し同より成持出た申す突多の鯨目名仁

此鯨有し同より成持出た申す突多の鯨目名仁
沖の首へ権原町申合の湖邊に産りし鯨目名仁
一同に産りし申す申す申す申す申す申す申す
皆産りし申す申す申す申す申す申す申す申す
此鯨有し同より成持出た申す突多の鯨目名仁

午五月

鯨目名仁の産りし鯨目名仁

尾 長丈三寸九寸

中 長丈三寸余

尾の長より四寸三寸

高サ 六尺八寸

巾 九尺

同長サ 八寸五分

眼玉 五寸八分

長サ 六寸五分

湖底穴 二寸五分

脊通リ 九間五分

頭丸 四間

上臑 下臑 寸長

口の如 五寸五分

寛政九年十月十日 御所金藏 益城 為公 沙
河書

新町之系下町

滑作 觸頭

藤田 大助

辛酉

右大助 役生 圓母 後高 郵部 中宿 村百姓 伴
系部 在 登 高 陣 与 汝 威 臣 居 以 其 後 滑
觸頭 奉 子 与 株 買 請 在 紙 中 部 大 官
也 此 下 所 之 恒 宅 在 五 云 冬 新 町 之 系 下 町